

## 書評・新刊紹介

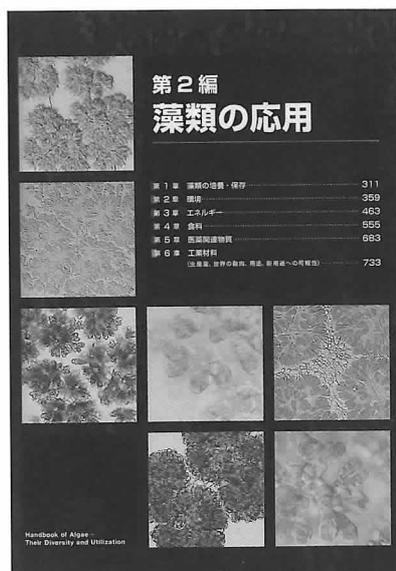
渡邊 信 監修・編集委員長

## 藻類ハンドブック Handbook of Algae - Their Diversity and Utilization

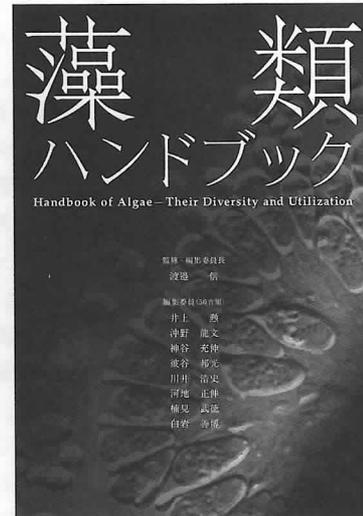
藻類の研究や調査で問題に突き当たった場合に必ず手にする、いわゆるハンドブック的な著書がいくつかある。古くは広瀬弘幸先生の「藻類学総説」であり、最近では西沢一俊・千原光雄先生編著の「藻類研究法」である。個人的ではあるが、洋書では Fritsch の「STRUCTURE AND REPRODUCTION OF THE ALGAE」や Fott の「ALGAENKUNDE」を良く手にした。これらはそれぞれの時代に藻類学の名著の評価を受けてきた。本書はこれらに匹敵する新たな名著の登場である。

藻類学の基礎と応用の2編より成り、第1編の「藻類の基礎」では近年分子系統解析により集積された客観的な情報に基づき刷新された生物界全体の分類体系に沿って藻類の分類、形態、生活史、生態に関する基礎生物学的基盤が明解に解説されている。併せて従前より藻類に特有な生理学的特徴を新たな視点を導入し、それらの要点を適切に纏めている。

第2編の「藻類の応用」では藻類が関係する up to date な諸問題を広い視野で、これまでには見られない項目の選択と配置が行われている。応用研究に必須技術である藻類の分離培養保存法（基礎研究でも必須）から始まり、環境科学調査に関係の深い分類群あるいは藻類が関与する自然・社会現象の理解と対策、エネルギー問題解決の道へのメッセージとして最近注目されている「石油藻類」の紹介、食料素材としての藻類、藻類の生理活性を利活用する医薬関連物質、工業素材（可能性を含めた）としての藻類抽出物質についてまで、先駆的な構成でバランス良く盛り込まれている。ここに本書の斬新さが伺える。



第2編の内容（一例）



株式会社エヌ・ティー・エス発行  
26.8 × 19.2 × 3.6 cm, 824 ページ,  
2012年, 定価: 38,000円 + 税,  
ISBN: 978-4-86469-002-7

本書の簡潔な項目名には、キーワードによるインターネット検索の便利さが巧みに取り入れられ、その一方各項目の割り当て頁数は必要最小限にとどめられ、そこに専門性豊かな内容をコンパクトに記述するという方針がとられている。これはインターネットの常用が不可欠であり、またそれでは満たされない知的欲求を補完しなければならないIT化の時代の情報収集に即した発想であり、これからの著書編纂のスタンダードを示しているといえよう。

藻類に関する膨大な生物学的な内容と学際的な学問分野の広さを176項目に厳選し、それぞれの項目に対して我が国を代表する藻類学および関連分野の新進気鋭の研究者と豊かな経験をもつ中堅・ベテランの研究者116名によって見事にカバーしているのも本書の特徴である。これだけの研究者に執筆依頼し、原稿をとりまとめた編集委員会と委員長の労苦は並大抵ではなかったはずである。その労苦と豊富なコンテンツを考えると、たとえ項目毎の体裁、表現や使用語の不統一があつたとしても、何ら評価に影響するものではない。また執筆者の多くは日本藻類学会の会員であり、本書は当該学会のアクティビティーと学問的な質の高さを象徴しており、会員の一人として誇らしく思う次第である。

(山形大学名誉教授 原 慶明)